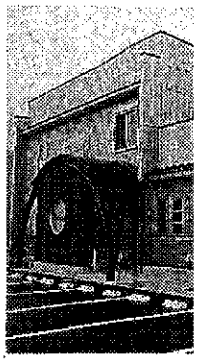


プハウスがこのほど成した。このクラブウスは木造2階建て、躯体、内・外装に元の熊野材をふんだ

▒▒▒▒▒▒▒▒

接納材できるよう働かけている。買い方通じて上がってくるレカット受注の仲介センターの新たな業として取り組んでい」。

玉置理事長は3年前ら現職に就いた。

「確かに流通構造変という市売冬の時代縮小を余儀なくされいる。ただ、1カ所あらゆる部位、銘、樹種、寸法を現物手できる機能は他の通にはないものだとっている。引き続き木店との共存共栄を本に、知恵を絞ってきたい」と話す。

44平方㍍、延べ床面積213平方㍍（1階136平方㍍、2階77平方㍍）。総工費5100万円。財源のうち県の補助である紀州材木造公共施設等整備加速化事業補助金が材外壁による断熱性能にも期待する。

中国産合板が本格入荷

北杜林

東日本大震災の復旧に向けて、いち早く合板輸入を開始した北杜計画だ。

杜社長は目下の合板不足解消に向け、取引先の中国合板メーカー各社と緊密に連携し、安定供給を図っていきたいと語る。4～5月で約3000立方㍍が入荷、引き続き取引先

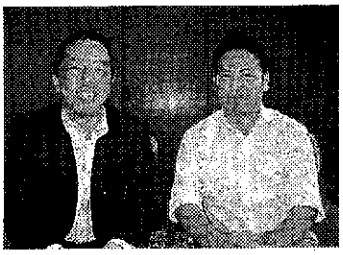
和歌山木成クラブ結成

木青連にも加盟

和歌山木材協同組合（和歌山市、朝間喜久雄理事長）傘下の若手組織である木成クラブ（朝間健至会団長）はこのほど、主に県外活動を行う別組織として、和歌山木成クラブ（中谷文彦会団長）を結成、4月から活動を開始し、日本木材青壮年団体連合会に加盟した。

和歌山木成クラブは様々な勉強会に加え、県外の若手業界人との結びつきの強化、中央行政機関等との直接交流を行っていくなかで自らの水準を高め、ひいては会社や事業に還元していくとの考え方に立つ。

木成クラブに加入する若手のうち、中長商店、朝間商会、阪中木材商店、宮本工業、八栄商会の5社で立ち上げた。



中長商店の中谷氏（左）と朝間商会の朝間氏

「県内に限定したこれまでの活動に加え、全国組織に加盟することで、より広範な情報収集、また人脈の拡充も可能になる。積極的な交流を行っていきたい」（中谷会団長）、「地域の若手が減少しており、こうした組織を立ち上げるのも最後の機会。次世代につなげる存在としていきたい」（朝間会団長）と話す。

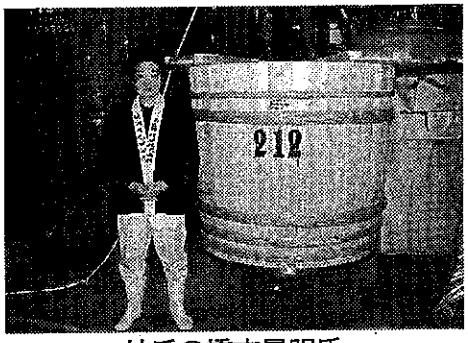
約60年ぶりに木桶仕込みも復活

吉野杉の良さを発信

吉野ウッドプロダクト

酒樽用材としての樽丸は良質の杉材を産出する吉野で享保年間に開発された。ここに目をつけたのが吉野ウッドプロダクト。吉野杉を使った木桶を製作し、地元の美吉野醸造で60年ぶりに木桶仕込みを復活させた。

樽丸に適したものは吉野杉のなかでも木目が真っすぐで、甲付と呼ばれる部分。この甲付とは、白身と赤身の



杜氏の橋本晃明氏

て、2月2日に1200㍑の仕込みを行い、3月4日に山廃仕込みの純米酒「百年杉　木桶仕込み」が完成した。現在、主に使用しているホーローのタンクの場合、冷え込みの厳しいときは保温マットを巻いて温度を保つ作業を行う。「驚いたことに、木桶はこの作業が全く必要なかった。吉野杉の保温性に感激した」（橋本晃明氏）。また、3月5日に開催された銘木と銘酒の町フォーラムで振る舞われ、一般参加者も吉野杉の良さを見るだけではなく、味わったという。

なお、百年杉木桶仕込みは限定1000本販売されている。問い合わせは美吉野醸造（電話0746・32・3639）まで。